

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
主任部長 兼甲状腺センター長	高野 徹
部長兼糖尿病センター長 兼栄養管理センター長 兼リハビリテーションセンター副センター長	檜根 晋
医 長	大槻 朋子
医 長	伊藤 博崇
副医長	高山 瞳
副医長	酒井 保奈

—概要—

糖尿病・内分泌代謝内科では糖尿病および内分泌代謝疾患患者の外来および入院診療を行っている。外来部門において、糖尿病、甲状腺疾患、その他の内分泌疾患の外来診察、糖尿病合併症進行予防のための療養指導(フットケア外来、透析予防外来)、甲状腺疾患の特殊検査・治療(RI検査・治療、甲状腺腫瘍のエコーガイド下穿刺吸引細胞診、PEIT)を行っている。病棟部門においては内分泌代謝疾患および一般内科疾患の入院中の管理を行っている。また他科入院症例の血糖コントロールを共観として担当している。

—実績—

外来診療については、糖尿病、甲状腺、その他内分泌疾患の患者を主に診療し、1か月の平均外来症例は688人であった。また検査として甲状腺エコーおよび穿刺細胞診を当科で実施している。

入院総症例数は296症例であった。糖尿病症例は81例(1型糖尿病11例、2型糖尿病65例、膵性糖尿病5例)であった。また2021年10月より妊娠時糖代謝異常の症例を当科にて担当開始し、今年度は81症例を経験した。内分泌疾患は16例(下垂体機能低下症精査6例、甲状腺疾患2例、原発性アルドステロン症精査6例、副腎精査2例)であった。救命救急科入院後の転科症例は低血糖性昏睡2例、糖尿病ケトアシドーシス23例であった。睡眠時無呼吸症候群精査14例、一般内科症例37例(尿路感染症5例、肺炎22例、電解質異常10例)、その他の症例は44例であった。入院中の他科依頼による共観については375症例を担当した。

糖尿病患者の外来での療養指導としては糖尿病透析予防指導を39件行った。またフットケア外来における患者指導は211件の指導を行った。

院外啓発活動として、第6回世界糖尿病デー、りんくう健康フェスタを昨年と同様に行った。今年のテーマは『糖尿病

と肥満』であり、詳細なポスターをスタッフ一同で作成し、10月24日から11月18日までCブロック横壁面に展示した。ポスターだけでなく同様の内容でパンフレットを作成し、約400名の当院通院患者に配布した。

□入院患者	296
■糖尿病症例	81
・1型	11
・2型	65
・膵性	5
■妊婦時糖代謝異常	81
■内分泌疾患	16
・下垂体精査	6
・甲状腺	2
・アルドステロン精査	6
・副腎精査	2
■ケトアシドーシス	23
■睡眠時無呼吸症候群精査	14
■一般内科症例	37
・尿路感染	5
・肺炎	22
・電解質異常	10
■その他	44
□共観	375
□透析予防指導	39
□フットケア外来	211

—今年度の成果と反省点—

コロナ禍で昨年に引き続き糖尿病教育入院が減少しており、積極的に内科一般入院患者を受け入れた。2021年10月より妊娠糖尿病、糖尿病合併妊娠などの妊娠関連糖代謝異常症例を当科にて対応することとなり、本年度で81症例と多くの症例を担当した。甲状腺診療については外来新患者数が増加を続けており、昨年度比1割増加して240例を超えた。

—来年度への抱負—

妊娠関連糖代謝異常症例については、クリティカルパスを開始し、また患者説明用の当院オリジナルのパンフレットを各職種で共同して作成し、パス入院での配布を開始した。

コロナ禍がやや落ち着き、コロナ禍に治療中断し糖尿病が悪化した症例や、糖尿病教育入院が以前の水準に戻ってくる可能性もあり、医員数減少の中でもコロナ禍以前の水準で対応していきたい。

また外来通院患者の糖尿病合併症の評価とケアは糖尿病センターにて継続的にモニタリングを行っている。継続的に評価が行えるシステム作りが必要である。

甲状腺診療については、今後も外来新患者数の増加を見込んでいるが、逆紹介を増やす等、紹介患者の受け入れをスムーズに継続できるよう努力をしていく。